

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371401353		
法人名	有限会社 アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム名古屋尾崎山の家 1号館		
所在地	愛知県名古屋市長区尾崎山一丁目1101番		
自己評価作成日	平成30年12月24日	評価結果市町村受理日	平成31年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2371401353-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2371401353-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市長区瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	平成31年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、職員が常に明るく笑顔の絶えない家庭的な雰囲気のもと寄り添いあいながら安心して生活をして頂けるよう努めている。高齢者虐待防止、接遇について特に力を入れており、不適切な声掛けやケアを放置することによってエスカレートし起こりうる虐待を未然に防ぐ事を毎月の会議で周知、徹底している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から13年となる事業所です。管理者は8年目の時に法人内の異動で着任し、5年となります。着任当初驚いたのは『職員の和』ができていて、チームワークが大変良いということでした。それは現在も変わらずで、管理者は大変助けられていると、常に職員に感謝しています。一番若い職員が32歳、最長が76歳と孫子程の開きがありますが、気軽に冗談を言い合え、有志での飲み会にはお酒が飲めない人も喜んで参加していて本当に仲が良いことが覗え、気持ちの良い職場が『利用者、職員が常に明るく笑顔の絶えない家庭的な雰囲気のもと寄り添いあいながら安心して生活をして欲しい』との、管理者の想いを実現しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼等で理念等を確認し、それを基に職員は介護サービスを実践するよう努めている。	法人理念は朝礼で唱和しています。事業所理念は作ってはいませんが、『利用者、職員が常に明るく笑顔の絶えない家庭的な雰囲気のもと寄り添いあいながら安心して生活をして欲しい』ということは、管理者から繰り返し伝えとともに、実践が確認されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の時の挨拶やイベント等、近隣の方や家族、民生委員に來設して頂き交流を深めている。	自治会に加入しており、回覧板が廻ってきています。踊りや歌、紙芝居のボランティア訪問も定期であり、七夕の時季になると笹の付いた竹を届けてくださるご近所もいます。また小学校が地域のお年寄を食事会に招く催しにも参加出来ています。	ご近所つきあいと外気浴も兼ねて利用者と一緒に回覧板を届ける機会をもつことを期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも、見学や相談をして頂けるような雰囲気づくりに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価の結果報告は勿論の事、ヒヤリハット事例や事故の件数、行事紹介などを報告しているが、行事以外の普段の生活、サービス内容をもっと知って頂くよう努めていく。	テーマを用意するとともに丁寧な下調べを以て毎回の運営推進会議に臨んでおり、年1回は協力医のミニ講座もおこなわれています。出席の家族の中には介護保険に詳しい人もいて、少人数ながら有意義な場と成っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より生活保護担当者や介護福祉課の方と連絡を密にとっており困難事例の相談等を受けるなど信頼関係構築に努めている。	生活保護者を7名受入れていることから区役所保護係には毎月出向き、その際には介護保険課にも立ち寄り、フェイスTOフェイスの関係にあります。集団指導にも必ず出席し、市や区の主催する研修会の案内は所内で回覧してもいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアル、身体的拘束等の適正化のための指針を整備し、定期的な研修や3か月に1回身体的拘束適正化検討委員会を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。防犯上により玄関の施錠は行っているが、外出を希望される方には時間帯によるが可能な限り職員が付き添うようにしている。	本年法改正があった『身体的拘束適正化検討委員会』については年4回の会議運営をすでに完了しています。本件についてはAA課程と名付けられたネット配信研修、職員会議の中での研修会、朝礼といった機会を利用して、随時確認と振り返りができるように取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル整備は勿論の事、朝礼や1か月に1度の職員会議などで、虐待防止に努めている。また、法人内においても虐待根絶サービス委員会の設置など虐待防止について力を入れている。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後制度を実際に活用している利用者様があり、職員全体で制度の把握をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、重要事項等説明しご理解を頂いたうえで契約を行っており、制度改正時には説明を行ったうえで再契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族様には利用者様の状況等報告を行っており、面会時やケアプラン作成時にはご意見や要望をお聞きし可能な限りケアや運営に取り入れるよう努めている。	毎月の請求書を事業所に取りに来てもらえる機会には、居室担当者が利用者本人の1ヶ月の様子を綴った手紙を渡しています。家族からは特段要望もなく、運営推進会議の出席率も上がりませんが、良好な関係にあります。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等では地域運営アドバイザーが出席し、職員から意見や提案又は質問など聞く機会を月に1度は設けており、法人内においても本部への直通ダイヤルを設置している。	利用者が杖を使いこなせなくなり車いすの導入が必要となったことから『名古屋市身体障害者更生相談所補装具来所判定』を受けるに至った例など、管理者には職員から提案や意見が常時入っていて、風通しの良い職場環境が保たれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、地域運営アドバイザー及び補佐を通し管理者や各職員の実態を把握し働き甲斐のある環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は毎月の社内研修や定期的にも実施される管理者会議などを通じ、技術、知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修や外部研修、連絡協議会などを通じ社内や外部関係者と交流を図りサービスの質の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントに基づき、ご本人様が困っている事や不安の原因を追究し安心して生活されるよう努めている。要望に関してはご自分で表現できない場合、普段の関わりを通じて汲み取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはご家族様やご本人様にもできるだけ来設頂き、施設側の説明など一方的になる事がないように困っている事、不安な事、をお聞きし安心して生活をして頂けるよう努めている。要望に関しては施設として対応できる事は可能な限りケアに取り組むようにし、信頼関係構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様やご本人様には十分に施設の説明をさせて頂いたうえで、困っている事や要望などお聞きし施設で対応可能な事や対応できない事をお伝えし、その方にとって最適な他サービスを提案するといった対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすことを基本とし、職員と共に行える範囲での食事の支度や洗濯畳み等をして頂き、ご本人の生活の質を高めて頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度はご家族に面会して頂く他、手紙や電話等にて近況報告をすることでご家族と情報を共有し共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が来られることはあまりないが、ご家族や関係者の方に面会や外出などをお願いしている。	編み物の趣味から管理者にも椅子の座面敷きをプレゼントした利用者や、家族から必ず午前、午後1回ずつ電話が入り、会話をもつのを日課とする人もいます。散歩を兼ねて喫茶店で珈琲を味わったり、嗜好調査で確認された好みのもので献立を本人と一緒に考えてもいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で利用者同士の関係がスムーズにいくように職員が細かい配慮をし、支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了となってもご本人やご家族の不安がないように関係機関と連携を図り相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時にはケース会議を行い、ご本人の希望や意向などの把握。日常生活の中での情報収集、家族の意向を考慮し本人の生活の質を高めるよう支援している。	権利擁護制度を利用している人には突然「情報提供を」との連絡が入ることもありますが、アセスメントシートと介護計画書のファイル化が整然とされ、『把握力』は盤石です。また実践者研修に参加の職員が課題提出のために24時間シートを一時的に導入したこともあります。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の今までの生活歴を把握し、変化したことやご家族等から新しく得る事の出来た情報を活かすサービス提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中でできる事、できない事を観察記録し職員間で情報共有し可能な事はして頂きADLはもとより、QOLの向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者がより自分らしく暮らせるよう、アセスメントを行い現状に即した介護計画を作成している。	計画作成担当者3名、介護支援専門員5名と、頼もしい職員集団です。情報を収集の枠組みを1CFシートに照らしフォーマット化しており、居室担当者の記載に基づき介護計画書の原案を作成した後、サービス担当者会議で更に協議のうえ『チームでつくる』につなげています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護詳細記録、申し送りノート等に毎日記録し全職員が把握できるよう努めケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス担当者会議や普段の生活の中から要望をお聞きし把握する事は勿論、突発的な要望等に対して対応できるものについてはすぐに対応するよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の飲食店での外食支援、小学校の運動会や昼食会、展覧会など参加させて頂き、要望に応じ楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による隔週の往診や職員での協力医への通院介助などを行っている。また、必要があれば紹介状を書いて頂いたり協力医による協力のもと速やかに受診できる体制を築いている。	在宅の頃のかかりつけ医から、月2回訪問診療をおこなう協力医へ全員が変更しており、看護師資格を持つ職員が協力医の受診に立ち合い、看護記録に詳細を残しています。他科受診は基本的には家族にお願いしていますが、事情がある場合は職員が代行しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者様との関わりを通じ日常の変化など気付いたことを看護師に報告し適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに担当医や関係者に情報提供を行い、治療計画の把握や今後の相談を行っている。又、退院時にはサマリーを基に支援方法を考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応は行っていないが、重度化した場合には各関係機関と連携し対応できる体制づくりに努めている。	職員会議の中で「こういう場合はこうする」という知識共有が図られ学びを進めていますが、ここ数年看取り実績はなく、医療の連携体制がとれない為で致し方ないこととしています。ただし、常勤の看護師が5分ほど先に住む近隣住民なこともあり、重度化については安心です。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全管理対策マニュアル、介護事故マニュアルなど各種マニュアルの整備、定期的な社内研修や消防訓練時による心肺蘇生法の実践など全職員が急変や事故発生時などに対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害や対策マニュアル、地震対策マニュアル等各種マニュアルの整備、年2回以上の消防訓練、年1回の水害対策訓練等を通し、全職員は災害時の対応方法の把握をしている。	本年の法定訓練は火災、水害其々の想定で、規定の2回を上回る3回実施しており、役割分担はその日の早番、遅番と予め定め、掲示もあります。管理者が消防職員の講話や指導を聴く機会も幾度となくあり、内容を所内に落とし込んでいて、有益な情報を確保しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼や職員会議等にて職員の意識改革を進めており、名古屋地区にて接遇目標を掲げそれを基に毎月反省点や改善点などを話し合いを行っている。	職員会議では『接遇』『不適切ケアの排除』を重点的に確認しています。食事ではハイネックの服装が汚れやすいとして「直しましょうか」と声をかけたり、「〇〇さん～」と都度呼びかけ有用感を増すよう支援したり、難しいそうと気づけば手を貸すなど職員の配慮ある行動を視認しました。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が職員に対し要望などを気軽に話して頂けるような信頼関係、雰囲気、環境づくりに努めている。また、職員も利用者様に対し自己決定できるような声かけなどを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身のペースに沿った過ごし方をして頂く為に職員は個々の方の要望を把握し、その日の体調等に配慮しつつ希望に沿えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容での散髪やその日に着る服などを職員と共に選んだり支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に好き嫌いをお聞きしたり嗜好調査や普段の会話の中から食べたいものやメニューを提供しており、施設で提供が難しい物は外食支援を行っている。また、簡単な調理や食器拭きなどできる方には職員と共にやっている。	ちらし寿司、混ぜご飯のときは2品となりますが、常には副菜は3品でボリューム満点の献立構成です。ホットプレートでの焼きそばやたこ焼き、スイカ割、流しソーメンといった参加型のイベント食を提供したり、畑で採れたさつま芋を何の料理にしようかと悩むのも楽しみです。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量、彩り、栄養バランスを考えメニューを作成している。水分量は好みや排泄状態から量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声かけや介助、義歯の手入れなどをご本人と職員が行っている。また、協力歯科の往診での受診や相談も行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンの把握、利用者様の表情や行動からさりげない声かけや誘導で失敗を無くすように努め自立に向けた支援を行っている。	フロアには3箇所(内1つは来客、職員用)のトイレがありますが、「ここがいい」と堅くなくマイトイレを決めている人もいます。平均介護度2.7で、大半が自分でトイレを出入りしている為、入っている時間が長い場合は出てきたらやんわりと確認して排泄チェック表につけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、食事量、水分摂取量などに配慮し、便秘気味の方には散歩や運動、便秘薬などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間は設定させて頂いているが、ご本人様やご家族様の要望があれば個別ケアとして対応させて頂く。	タイル貼りで民宿と見紛う大きな浴槽には2、3人の仲良しで入ることもあり、そんなときはおしゃべりを楽しむ入浴タイムとなっています。「あったか〜い」としみじみ声を発して湯に浸かる歓びを現すこともあり、また職員の庭に実った柚子を浮かべる日もあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思を尊重し昼寝など居室での休息をとって頂いている。また、天気の良い日には布団を干し、気持ちよく休んで頂けるよう環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬の種類や用法、副作用などを理解し、施設看護職員や協力医、薬剤師など不明点があれば随時相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や食事の下準備やテーブル拭き、食器拭き、洗濯物たたみなどできる方に職員とともにっており日常的に役割を持って頂くよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日にはポーチでの外気浴や公園など施設近隣の散歩を行っている。また、定期的な外出支援や行事での外出、ご家族様や身元保証人の方とも食事や買い物などで外出をされる方もいる。	気候がいいと駐車場に在るベンチを使って立ち上がり運動や歌をうたって楽しむほか、目の前の公園では春にはおにぎり弁当持参で桜の花見を堪能したり、近くの神社までミニドライブで出かけた境内を散歩することもよくあります。	全体での外出機会をつくることは無理なようなので、誕生日(月)での個別外出企画が実現すると良いと思います。



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所で行っているが、希望などがあれば外食や、買い物などでの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの荷物が届いた時にご本人様にお礼の電話などして頂いている。また、毎日ご家族様と電話での会話をされる方もいる。ご家族が遠方の方には毎月必ず手紙を送り近況などをお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただくため、折り紙や貼り絵など季節に応じた飾りつけを行っている。また、居室内やフロア等の温度調整に配慮し居心地よく過ごして頂けるよう努めている。	一時仲が良くても口喧嘩が始まることもあり、席替えはフットワークよくおこなっています。モップの次はヘラで汚れとり、その次が水モップという順番で、遅番と夜勤の2人で毎日おこない、エアコン等は月1回といった頻度を定めています。	エレベーターの床の汚れが染みついている、掃除レベルでは難しいようですので、取り換えることを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの食事等以外、テレビを見る方、ソファで寛がれる方、会話をされる方等ご自由にすごしていただければように席の配置等に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好きな花やぬいぐるみ、仏壇等を配置している。乾燥する時期には濡らしタオルを居室内に掛け過ぎやすいよう配慮している。	遺影とお位牌を置いて毎日水をあげて拜んでいる人や、カレンダー、ぬいぐるみ等、動物が大好きで全て犬や猫を模したモノに囲まれた暮らしを続けている人もいます。散歩が好きなのか、夏物の帽子が「いつでも出しましょう」と言いたげに手にとってもらえる日を待つ居室もあります。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態や動作を把握し家具等の配置に気を付けている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2371401353		
法人名	有限会社 アートプロジェクト		
事業所名	グループホーム名古屋尾崎山の家 2号館		
所在地	愛知県名古屋市緑区尾崎山一丁目1101番		
自己評価作成日	平成30年12月24日	評価結果市町村受理日	平成31年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2371401353-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.nhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhou_detail_2018_022_kami=true&amp;JigyosyoCd=2371401353-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社第三者評価機構 愛知評価調査室		
所在地	愛知県名古屋市瑞穂区本願寺町2丁目74番地		
訪問調査日	平成31年1月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様、職員が常に明るく笑顔の絶えない家庭的な雰囲気のもと寄り添いあいながら安心して生活をして頂けるよう努めている。高齢者虐待防止、接遇について特に力を入れており、不適切な声掛けやケアを放置することによってエスカレートし起こりうる虐待を未然に防ぐ事を毎月の会議で周知、徹底している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から13年となる事業所です。管理者は8年目の時に法人内の異動で着任し、5年となります。着任当初驚いたのは『職員の和』ができていて、チームワークが大変良いということでした。それは現在も変わらずで、管理者は大変助けられていると、常に職員に感謝しています。一番若い職員が32歳、最長が76歳と孫子程の開きがありますが、気軽に冗談を言い合え、有志での飲み会にはお酒が飲めない人も喜んで参加していて本当に仲が良いことが覗え、気持ちの良い職場が『利用者、職員が常に明るく笑顔の絶えない家庭的な雰囲気のもと寄り添いあいながら安心して生活をして欲しい』との、管理者の想いを実現しています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼等で理念等を確認し、それを基に職員は介護サービスを実践するよう努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩の時の挨拶やイベント等、近隣の方や家族、民生委員に來設して頂き交流を深めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いつでも、見学や相談をして頂けるような雰囲気づくりに努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、外部評価の結果報告は勿論の事、ヒヤリハット事例や事故の件数、行事紹介などを報告しているが、行事以外の普段の生活、サービス内容をもっと知って頂くよう努めていく。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日頃より生活保護担当者や介護福祉課の方と連絡を密にとっており困難事例の相談等を受けるなど信頼関係構築に努めている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についてのマニュアル、身体的拘束等の適正化のための指針を整備し、定期的な研修や3か月に1回身体拘束検討委員会を開催し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。防犯上により玄関の施錠は行っているが、外出を希望される方には時間帯によるが可能な限り職員が付き添うようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアル整備は勿論の事、朝礼や1か月に1度の職員会議などで、虐待防止に努めている。また、法人内においても虐待根絶サービス委員会の設置など虐待防止について力を入れている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後制度を実際に活用している利用者様があり、職員全体で制度の把握をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、重要事項等説明しご理解を頂いたうえで契約を行っており、制度改正時には説明を行ったうえで再契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃からご家族様には利用者様の状況等報告を行っており、面会時やケアプラン作成時にはご意見や要望をお聞きし可能な限りケアや運営に取り入れるよう努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等では地域運営アドバイザーが出席し、職員から意見や提案又は質問など聞く機会を月に1度は設けており、法人内においても本部への直通ダイヤルを設置している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、地域運営アドバイザー及び補佐を通し管理者や各職員の実態を把握し働き甲斐のある環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者や職員は毎月の社内研修や定期的にも実施される管理者会議などを通じ、技術、知識向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内研修や外部研修、連絡協議会などを通じ社内や外部関係者と交流を図りサービスの質の向上に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントに基づき、ご本人様が困っている事や不安の原因を追究し安心して生活されるよう努めている。要望に関してはご自分で表現できない場合、普段の関わりを通じて汲み取るよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にはご家族様やご本人様にもできるだけ来設頂き、施設側の説明など一方的になる事がないように困っている事、不安な事、をお聞きし安心して生活をして頂けるよう努めている。要望に関しては施設として対応できる事は可能な限りケアに取り組むようにし、信頼関係構築に努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族様やご本人様には十分に施設の説明をさせて頂いたうえで、困っている事や要望などお聞きし施設で対応可能な事や対応できない事をお伝えし、その方にとって最適な他サービスを提案するといった対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共に暮らすことを基本とし、職員と共に行える範囲での食事の支度や洗濯畳み等をして頂き、ご本人の生活の質を高めて頂けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1度はご家族に面会して頂く他、手紙や電話等にて近況報告をすることでご家族と情報を共有し共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が来られることはあまりないが、ご家族や関係者の方に面会や外出などをお願いしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で利用者同士の関係がスムーズにいくように職員が細かい配慮をし、支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了となってもご本人やご家族の不安がないように関係機関と連携を図り相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成時にはケース会議を行い、ご本人の希望や意向などの把握。日常生活の中での情報収集、家族の意向を考慮し本人の生活の質を高めるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人の今までの生活歴を把握し、変化したことやご家族等から新しく得る事の出来た情報を活かすサービス提供に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中でできる事、できない事を観察記録し職員間で情報共有し可能な事はして頂きADLはもとより、QOLの向上に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各担当者がより自分らしく暮らせるよう、アセスメントを行い現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録、介護詳細記録、申し送りノート等に毎日記録し全職員が把握できるよう努めケアプラン見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス担当者会議や普段の生活の中から要望をお聞きし把握する事は勿論、突発的な要望等に対して対応できるものについてはすぐに対応するよう努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の飲食店での外食支援、小学校の運動会や昼食会、展覧会など参加させて頂き、要望に応じ楽しんで頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医による隔週の往診や職員での協力医への通院介助などを行っている。また、必要があれば紹介状を書いて頂いたり協力医による協力のもと速やかに受診できる体制を築いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者様との関わりを通じ日常の変化など気付いたことを看護師に報告し適切な受診や看護を受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には速やかに担当医や関係者に情報提供を行い、治療計画の把握や今後の相談を行っている。又、退院時にはサマリーを基に支援方法を考えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期対応は行っていないが、重度化した場合には各関係機関と連携し対応できる体制づくりに努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	安全管理対策マニュアル、介護事故マニュアルなど各種マニュアルの整備、定期的な社内研修や消防訓練時による心肺蘇生法の実践など全職員が急変や事故発生時などに対応できるよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	風水害や対策マニュアル、地震対策マニュアル等各種マニュアルの整備、年2回以上の消防訓練、年1回の水害対策訓練等を通し、全職員は災害時の対応方法の把握をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	朝礼や職員会議等にて職員の意識改革を進めており、名古屋地区にて接遇目標を掲げそれを基に毎月反省点や改善点などを話し合いを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が職員に対し要望などを気軽に話して頂けるような信頼関係、雰囲気、環境づくりに努めている。また、職員も利用者様に対し自己決定できるような声かけなどを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身のペースに沿った過ごし方をして頂く為に職員は個々の方の要望を把握し、その日の体調等に配慮しつつ希望に沿えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的な訪問理美容での散髪やその日に着る服などを職員と共に選んだり支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に好き嫌いをお聞きしたり嗜好調査や普段の会話の中から食べたいものやメニューを提供しており、施設で提供が難しい物は外食支援を行っている。また、簡単な調理や食器拭きなどできる方には職員と共に行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	量、彩り、栄養バランスを考えメニューを作成している。水分量は好みや排泄状態から量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの声かけや介助、義歯の手入れなどをご本人と職員が行っている。また、協力歯科の往診での受診や相談も行っている。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンの把握、利用者様の表情や行動からさりげない声かけや誘導で失敗を無くすように努め自立に向けた支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容、食事量、水分摂取量などに配慮し、便秘気味の方には散歩や運動、便秘薬などで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日、時間は設定させて頂いているが、ご本人様やご家族様の要望があれば個別ケアとして対応させて頂く。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の意思を尊重し昼寝など居室での休息をとって頂いている。また、天気の良い日には布団を干し、気持ちよく休んで頂けるよう環境整備に努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様の薬の種類や用法、副作用などを理解し、施設看護職員や協力医、薬剤師など不明点があれば随時相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編み物や食事の下準備やテーブル拭き、食器拭き、洗濯物たたみなどできる方に職員とともにっており日常的に役割を持って頂くよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日にはポーチでの外気浴や公園など施設近隣の散歩を行っている。また、定期的な外食支援や行事での外出、ご家族様や身元保証人の方とも食事や買い物などで外出をされる方もいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事業所で行っているが、希望などがあれば外食や、買い物などでの支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からの荷物が届いた時にご本人様にお礼の電話などして頂いている。また、毎日ご家族様と電話での会話をされる方もいる。ご家族が遠方の方には毎月必ず手紙を送り近況などをお伝えしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただくため、折り紙や貼り絵など季節に応じた飾りつけを行っている。また、居室内やフロア等の温度調整に配慮し心地よく過ごして頂けるよう努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでの食事等以外、テレビを見る方、ソファで寛がれる方、会話をされる方等ご自由にすごしていただけるように席の配置等に配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の好きな花やぬいぐるみ、仏壇等を配置している。乾燥する時期には濡らしタオルを居室内に掛け過ぎしやすいよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態や動作を把握し家具等の配置に気を付けている。		